

人と朱鷺が共生できる地域環境づくりプロジェクト (2010-2015)



中国国家林業局

日本国際協力機構 (JICA)



## ハイライト

### トキ再発見30周年記念式典・ワークショップ

5月23日洋県でトキ再発見30周年の式典が行われ、国家林業局、陝西省、漢中市、洋県の関係者と日本、韓国の代表が出席しました。式典の後、洋県生態梨園でトキ放鳥式を行い、人工飼育で育てた20羽のトキを自然に帰しました。



## ワークショップ

翌5月24日には、トキ再発見30周年国際ワークショップが開催され、中国、日本、韓国三ヶ国の研究者やトキ保護関係者約150人が参加しました。各国のトキ保護の現状と課題、遺伝的多様性、生息環境評価や自然再生、野生復帰の取組み等の発表があり、今後の国際交流の継続が提案されました。



## トキ発見者－劉蔭増先生にトキを30年前に見つけた時の様子を独占インタビューしました！！

トキを見つけた劉蔭増先生とお会いすることができ、その当時の様子を伺いました。

「3年間ずっと捜し続けて、30年前の今日、トキを見つけた。その時は午後5時ぐらいで、ちょっと暗かった。山道を歩きながら、ふと空を見ると、西から飛んでくる鳥が私の目を引いた。私は感動した。飛んでいる姿は首がまっすぐしていたので、おそらく80%くらいトキだとわかったからだ。感動し過ぎて、足もとが滑って、地面に座り込んだ。大変、感動した。」(劉蔭増) Interviewed by 周霞



## 30周年記念切手シート

トキ再発見30周年と技術協力「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」開始を記念して、記念切手シートが発行されました！デザインも専門家と中国側CPが一緒になって作成したものです。JICA'S WORLD6月号にもこの記念切手シートの発行に関するコラムが掲載されました！



## 第4回プロジェクト定例会議 4月8日

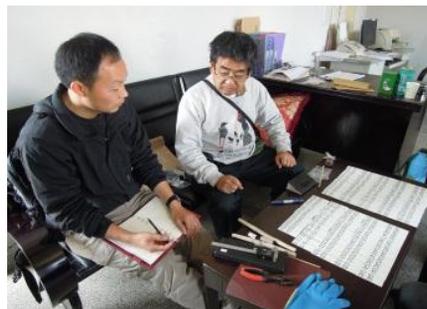
新年度、初めての定例会議を西安市の陝西省林業庁で開催。合同調整委員（JCC）に向けて、プロジェクト事務局の陸主任を始め、各省からの参加メンバーとともに、PDM指標の設定などについて検討し、原案を固めました。また、本年度の活動計画や予算についても協議し、年間活動の大枠について、イメージを共有しました。

## 春季生息(繁殖)状況調査(洋県4月11日-13日)

漢中朱鷲保護区で毎年行っている春のトキの生息調査に米田専門家が同行してトキの繁殖調査状況を視察しました。この調査は洋県地域のトキの生息状況の把握の基本調査の一つで、今年は規模を拡大して行われました。この時期のトキは抱卵中で、少しの刺激でも巣を放棄する危険があるので、繁殖の確認だけを行い、巣場所の詳しい計測は繁殖後期に行うとのことでした。繁殖調査状況の集計は現在朱鷲保護区の手で行われています。

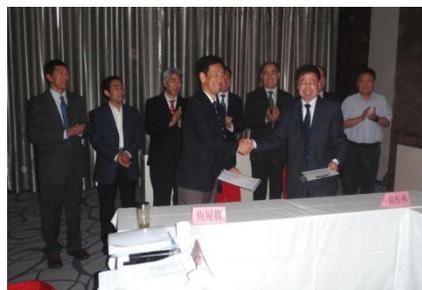
## ナンバー入りカラーリング成型研修 4月10日

日本の環境省と山階鳥類研究所から贈られてきた番号入りのプラスチック板をトキ用の足環に加工する方法の研修を行いました。研修は米田専門家の指導により、全国鳥類バンディングセンターの劉冬平氏および漢中朱鷲自然保護区の職員らが参加し、共同で今年使う足環を作成しました。番号入りカラーリングはトキの行動観察をするうえで非常に有効で、今後のモニタリングにおける成果が期待されます。



## 第1回合同調整委員会(JCC) (西安 4月22日)

合同調整委員会（JCC）は、プロジェクト活動全体を指導・点検する年1回の重要会議です。西安市内の民航ビルにて開催され、国家林業局国際合作司曲桂林司長、同保護司厳旬副司長、陝西省、河南省林業庁副庁長、各自然保護区管理局長など、またJICA側は北京事務所魚屋次長など、計28名が参加しました。



議題は、PDMの指標、PO(活動計画)プロジェクト管理運営要綱といったプロジェクト全体の枠組みや年間活動計画案等で、森リーダー及び陸主任から原案を説明、討議の結果、原案どおり承認されました。

最後に議長の曲桂林国際合作司司長から、「『人とトキが共生できる地域環境づくり』というこのプロジェクトの名称はとても良い、人とトキ、人と自然、そして人と人の調和が重要であり、この意味でさらに広報を強化する必要がある。」とコメントを頂き、その後、魚屋次長と曲司長が議事録に署名し、無事日程を終了しました。

## 北戴河のバンディング (5月9日～12日)



毎年全国の標識調査(バンディング)従事者を集めて、全国鳥類バンディングセンターが行っている研修会で、今年は河北省にある北戴河国家級自然保護区で5月2日～7日と、8日～13日の2回行われ、米田専門家が2回目の研修に同行しました。2回目の研修会は45名が参加し、スウェーデンからの講師を招いて熱心に研修を受けていました。米田専門家は、トキプロジェクトと日本の鳥類標識調査状況について紹介し、中国各地の鳥類研究者と交流しました。

## 董寨保護区トキ餌資源調査 (5月15日～17日)

全国鳥類バンディングセンターの劉冬平氏および董寨保護区の職員らとともに、トキ飼育場周辺の湿田で、トキの餌となる水生動物(魚類、両生類、貝類、昆虫類など)の生息状況調査を行いました。これからトキの放鳥を計画している董寨保護区では、トキが定着するために餌量の把握と増殖は不可欠なことです。



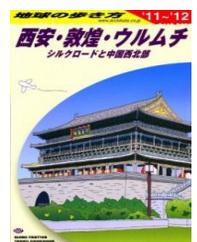
## ミニバン供与式 (西安 5月25日)

5月25日、陝西省林業庁へのミニバン供与式を行いました。これまで、専門家は借上げ車や夜行列車を利用してサイトに通っていましたが、今後は公用車で効率的に動けることになりました。この場を借りて、連日の深夜に及ぶ調達業務を遂行してくださった事務所の調達班に感謝!!!



## 「地球の歩き方」にプロジェクトのコラムの掲載 (6月18日 発売)

「地球の歩き方」西安・敦煌・ウルムチ(株式会社ダイヤモンド・ビック社出版)に当プロジェクト西安事務所を紹介するコラムが掲載されました。



## 有機梨園の研修会 (洋県 6月16日～17日)

6月16日、17日の両日、洋県草坝村にて有機梨の栽培技術研修を実施しました。草坝村は野生トキにとって重要な生息地です。梨は村の主な産物の一つですが、これまで粗放な栽培で収入もよくないです。研修では農業大学の教授、洋県の有機梨の専門家と蘇専門家などの指導により、有機梨について栽培管理手法の講義が実施されました。実習には100人を超える村民が参加し、熱心に技術の習得に取り組みました。成果の活用により、住民の生計向上が期待されます。



4月から6月まで、3ヶ月にわたり、モデルサイトで環境教育アンケート及び現地ヒアリング調査を実施しました。調査結果は6月の定例会にて発表し、今後の活動などについても説明しました。今回の基礎調査の結果に基づき、具体的な活動が始まります。第一弾として、7月にトキ絵、作文、詩歌コンクールを実施する予定です。



## プロジェクト専門家 紹介

### 蘇 雲山

始めまして、私は蘇 雲山(そ・くもやま)です。トキ保護に関わってもう30年。7羽の時代から日中の橋渡しとしてトキの協力や技術交流につとめてきました。トキと人間の関係に大変興味があり、特にトキの生息域の環境、経済、地域社会について大きな関心を持っており、その研究を10数年間続けています。

昨年9月JICAトキプロジェクトが立ち上り、参加型開発専門家として西安にきました。社会環境調査やモデル事業推進の関係でよく農村を回り農民から話しを直接聞くことができとても楽しみにしています。最近地元の農民から「老朋友」と親しくよばれるようになり、とても感動。これからはトキ生息域の農民の生活向上のためにモデル事業を通じて微力ながら頑張りたいです。



### 米田 重玄

始めまして、私は米田重玄(こめだ・しげもと)です。財団法人山階鳥類研究所から参りました鳥類保護をプロジェクトでは担当しております。

大阪府出身の団塊世代です。山階鳥類研究所では鳥類標識調査や、沖縄本島北部のヤンバルクイナやノグチゲラの生態研究等に従事してきました。

研究略歴としては

1978-1981年タマシギの生態研究

1981-1984年オナガの生態研究

1984年から鳥類標識事業に携わる

1990年代からヤンバルクイナやノグチゲラ等の希少鳥類の生態研究。

趣味は山歩きと工作、会議の資料を製本したり、カメラと双眼鏡をつなぐ部品を作ったりしています。



環境教育・業務調整担当の平野です。プロジェクトには12月より合流、いまちょうど半年が経過したところです。学生時代より自然環境保全の仕事をしたいな〜と思っておりましたが、33歳になってやっと念願がかない、日々やる気一杯というところです。

これまで環境教育に関しての私の経験は、神戸大学の国際協力研究科にて環境学修士を取得後、UNEPの管轄するモントリオール議定書多数国間基金にて、JAPAN-ナイジェリアプロジェクトにて環境教育担当の仕事をしていました。

業務調整に関しては今回が初めての経験でまだ慣れませんが、執務室探し、事務所家具の購入、宴会の時は幹事と、すべての雑用をやっております。幸いうちのプロジェクトには優秀なナショナルスタッフがいますので心強いです。

そのほか、プロジェクト活動の宣伝もODAでは重要ですので、力をいれます。四季報もその中の活動の一つです。積極的に日中合作の「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」を日本国内、中国国内に向けて宣伝していきたいと思えます。

また、我々専門家が現場でスムーズに活動できるように支援をしてくださるJICA中華人民共和国事務所の業務班・調達班・専門家担当班の皆様、いつも本当にありがとうございます。事務所の手厚い支援、また本部からの支援、そのほか多くの関係者の方のサポートを日々実感しております。

多くの皆様の期待を裏切らないように日中双方が協力して成果を出すために、できることは全てやっていきたいと思えます。



(イランの山奥にて)

## Xian Cool

### 大明宮

大明宮にて唐の時代に作られた城壁を見ました。西安の旧市街を取り囲んでいる城壁は明代のもので、かなり立派なものです。実は唐の時代の城壁はより立派でより、広大なものでした。日本も無償資金協力を実施して、展示館等の整備を行いました。ぜひ、西安にお越しの際は、大明宮へ。一見の価値があります。日本の京都も大明宮をモデルとして作られています。

大明宮では阿部仲麻呂も働いていたと思うとなんだか不思議な気がします。阿部仲麻呂は717年、渡唐。玄宗に寵遇され、李白・王維らと交友があり、「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」という百人一首で有名です。

阿倍仲麻呂も、月のほかにトキを見ても、日本を思い出したのかもしれません。そんな思いで大明宮を散策しました。

(平)



案件名:大明宮含元殿遺跡保存環境整備計画

スキーム:無償資金協力事業

E/N署名日:2002年11月21日

案件完了日:2004年2月18日

実施地:陝西省西安市

協力内容については①含元殿遺跡の整備、②釜戸展示ルームの復元、③含元殿遺跡の裏に歴史、整備を説明するための展示館の建設等

## 第1話：日本人とトキ

—トキ事業の第一人者蘇雲山先生へのインタビュー—

平：トキは昔、日本のどこに分布していたのでしょうか。

蘇：明治以前には、トキは一般的な鳥でした。北海道の函館から九州、沖縄までほぼ日本全国に生息しました。

平：明治以前はどこでもトキが見られたということですね。では、なぜだんだん数が減って、最後に日本のトキは絶滅したのでしょうか。

蘇：明治時代、トキはいつも田んぼに降りて苗を踏み荒らしたりして、農民に嫌われていた鳥でした。そのため、当時の人は鉄砲でトキを撃ち始めました。その結果、トキの数もだんだん減りました。それは一つの原因です。もう一つは環境の悪化です。近代に入って、農薬や化学肥料が使われ始めて、その結果で、田んぼや河の中の生物、例えば、トキの餌であるドジョウや水生小動物などが少なくなりました。一方、農薬や化学肥料の濫用によって、餌生物を通してトキの体の中で毒素が蓄積された。だから、トキの体もだんだん弱くなってきました。これは環境悪化の悪影響です。

平：トキと日本の皇室との間で何かの関係があるそうですが。

蘇：それは古い伝統があります。毎年、正月に、天皇陛下は伊勢神宮に参拝します。伊勢神宮は20年おきに「遷宮」(古い神宮を壊して、新しい神宮を造ること)という古い伝統があります。「遷宮」の時は、神宮の宝物を展示します。その時、展示される宝物には必ず二枚のトキの羽を飾ります。だから、もし本当にトキがいなくなったら、この古い文化も失ってしまいますので、日本人は古い伝統を守るために、トキを守っていく願望があります。

平：トキの未来についてどのように思っていますか。

蘇：日本人はトキに対する思いが強いです。今は、トキの生息は生物多様性の一つのシンボルになっています。佐渡で2008年以降、4回にわたり放鳥を実施し、2015年までに60羽の定着を目指していきます。今回の「人とトキが共生できる環境づくりプロジェクト」を通して、日中のトキ交流が強化され、将来の佐渡などの野生復帰事業にも役に立てると思われまます。今は野外での繁殖が期待されていますが、これからの交流や技術の発展につれて、必ず解決できます。今、佐渡だけではなく、関東や大分、石川、出雲などの地域でもトキを導入するために、環境の整備などを行っています。

平：今日は貴重な話をありがとうございました。

(取材者:平野 貴寛)



1981年9月 環境庁大臣室にて  
鯨岡兵輔大臣(右一)、専門家蘇雲山(右二)、  
中国動物研文所長銭燕文(右三)、トキ発見  
者劉蔭増(右四)



伊勢神宮の20年ごとの式年遷宮の際に  
奉納される御神宝「須賀利御太刀」。  
長さは三尺六寸。柄の部分にトキの羽  
を2枚上下に赤い絹糸でくりつける。  
使われる羽は長さ16.5センチ以上幅  
3.6センチ以上必要。

「人とトキの物語」では、わかりやすく、人とトキの関係について、専門家にインタビューしていきます。次回は「トキと中国人」の予定です。お楽しみに！

本誌「人もトキも」に関する皆様のご意見・ご感想を聞かせてください！  
お問い合わせ大歓迎！ 連絡先はこちらです → [toki.information@gmail.com](mailto:toki.information@gmail.com)

● 編集後記

今回は30周年記念事業というビックイベントがありましたが、日常の業務こそより大切に日々着々と事業を進めております。四季報もより見やすく、わかりやすく進化しております。今後も本プロジェクト事業へのご支援をよろしくお願いいたします。

(平)

プロジェクト所在地

〒710082 西安市蓮湖区労働南路296号民航大厦14F

T E L / F A X : +86- (0) 29-88793312

U R L : [http://www.jica.go.jp/project/area/asia/033\\_1.html](http://www.jica.go.jp/project/area/asia/033_1.html)

E - mail : [toki.information@gmail.com](mailto:toki.information@gmail.com)

担 当 :

日本側担当者 平野 貴寛

中国側担当者 周 霞

お断り

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構(JICA)の意見を代表するものではありません。